

受 賞 者 紹 介

<担い手育成部門>

岡 田 絃 平

<技術改善部門>

岡 田 詔 男

<農業・農村振興部門>

宮 路 美千子

担い手育成部門



豊田市

おか だ こう へい
岡 田 紘 平

岡田紘平氏は、豊田市でシンビジウム栽培を発展させた農家で、長男へ経営移譲後の現在は、産直用果樹や野菜生産にも励んでおられる。

昭和31年度に就農し、観葉植物生産等を経て、昭和47年度よりシンビジウム専作の経営を開始、全国屈指の洋ラン農家になられるとともに、豊田市の洋ラン農家をまとめ、洋ラン産地の振興に尽力された。

研修生は、県立農業大学校、安城農林高等学校の学生を始め、専業農家の後継者、海外の研修生を昭和47年から受け入れ、現在までに52名を数えている。受け入れにあたっては、事前に研修生宅に出向き、育った環境などを把握するなどして研修生の資質に合わせた対応に心がけ、国内では18名、海外では10名が就農している。研修終了後も岡田氏は、就農者に対し栽培技術や経営に関するアドバイスをを行っている。農業大学校によると、最近の学生のなかには、岡田氏を指名して研修を受けたいと言ってくる学生もいるという。

洋ラン産地としての担い手の育成では、シンビジウム栽培技術向上を目的に「豊田市洋らん研究会」を設立し、初代会長に就任された。5年間の在任中に、植え込み資材や冬期の温度管理の統一及び山上げ作業の共同化等に取り組み、栽培技術や労働力軽減につながられた。昭和59年には、「豊田市花き園芸組合」を立ち上げ、初代組合長に就任するとともに、担い手の育成・産地の振興に尽力された。

長男への洋ラン経営移譲後は、産直場面で、栽培技術、収穫調整技術、販売方法を工夫し、その成果を積極的に産直農家に伝授し、産直農家の育成に努めておられる。特に、ウメ栽培では、エコファーマーの認定を受けるなど「チャレンジ精神」はますます盛んとなっている。

以上のように、洋らんを中心とした担い手育成への貢献度は非常に大きい。また、現在は直売所へ出荷をしている生産者に対するアドバイスを通して、直売所生産組織の活性化を図っておられる。

担い手育成を通じて、産地の発展に努めていることが、高く評価された。

技術改善部門



豊田市

おか だ のり お
岡 田 詔 男

岡田詔男氏は、愛知県農業総合試験場において41年8ヶ月の長きにわたって、現業職員として試験研究の補助、果樹園芸技術の改善に携わり、平成2年からはナシの品種改良に取り組みました。現在は、自らナシ園を経営されておられる。

岡田氏は試験場の研究員とともに品種開発に取り組み、ナシ栽培で培った篤農的な選抜眼を用いて、交配親の選定、実生育成、選抜を繰り返し、農家の要望に応えるナシの新品種「陽水」と「歛月」の育成に多大な尽力をされた。「観月」は、JAあいち豊田梨部会が平成16年度に「愛梨（あいり）」として商標登録し、ブランド化による産地振興の起爆剤になっている。

愛知県を退職後は、豊田市でナシ農家（35a）として栽培に携わるとともに、JAあいち豊田梨部会員として、指導員の指導内容をよりわかりやすく説明をして「技術の翻訳者」としての活動を行っている。また、西尾市の定年帰農者（26名）からなる「梨おとうさん会」の講師としてナシ栽培のノウハウをわかりやすく伝授し、地域のナシ栽培の技術向上に貢献しておられる。

ナシ栽培では、品種別の新梢管理法の改善・交信攪乱剤設置方法の改善等の新しい技術を積極的に導入され、栽培技術の改善に日々努力されている。

高い技術と献身的な人柄により、地域ブランドとなりうるナシの新品種を育成されたこと、地域農業の発展に貢献していることが高く評価された。

農業・農村振興部門



豊橋市

みや じ みちこ
宮 路 美千子

宮路美千子氏が経営に参画している「宮路園芸」は、豊橋市で代表的なオオバ専作経営を展開されている。また、地域における男女共同参画推進の先駆的な役割を果たしてきた。特に、女性の感性を活かした農業委員としての活動や次代を担う女性農業者の育成、住みよい農村づくりに精力的に取り組んでおられる。

農業経営では、先端技術の導入による栽培技術の改善、就業規則の設定などの雇用管理、家族の役割分担などの家族経営協定の締結、自らも農地を保有して経営者としての地位を確立されている。

平成3年に地域の未利用資源である摘果メロン・冬瓜を活用した漬物の加工販売を行う女性起業「3H南部レディース」の立ち上げを行い、農産物の付加価値化を進めている。

農村生活アドバイザーの活動として「家族経営協定」をテーマとした寸劇を実施し啓発活動を進めるとともに、「豊橋市家族経営協定締結推進協議会」を設立し、地域ぐるみの締結推進を図っている。

また、豊橋市内の女性団体のネットワーク化をはかるため、県内でも希な「豊橋女性農業団体連絡会」を立ち上げ、女性リーダーとして地域を統率している。当連絡会の設立により、女性組織の総合力が発揮され、食農教育、地産地消、相続並びに女性の資産形成、市への要望書の作成等、地域振興に関わる活動へと発展した。

宮路氏は、豊橋市の初めての女性農業委員として、「とよはし学校給食の日」の設定、花嫁花婿対策、遊休農地解消対策や景観形成作物の植栽による農地の利用増進などに尽力されている。

男女とも働きやすい農業、暮らしやすい農村づくりに与えた氏の功績は大きく、今後の活躍も期待される。

審 査 講 評

あいちアグリアワード審査委員会

委員長 竹谷 裕之

第4回目の本年度は、5名と1団体が賞の候補者に推薦され、去る9月29日に三晃錦ビルにおいて審査をいたしました。その結果と内容をご報告して審査講評に代えさせていただきます。

審査部門毎の内訳は、担い手育成部門3件、技術改善部門1件、農業・農村振興部門2件で、それぞれが本県の農業および農村振興に多大な努力をされており、審査には大変苦勞をいたしました。

審査要領に従って、慎重かつ公平に審議し、審査委員全員の合議をもって、担い手育成部門に岡田紘平さん、技術改善部門に岡田詔男さん、農業・農村振興部門に宮路美千子さんを選びました。

担い手育成部門では、個人3名が推薦されました。それぞれの分野で担い手の育成に力を注ぎ産地の発展に尽力されている方々です。

今回受賞されます岡田紘平さんは、豊田市でシンビジウム栽培を発展させた農家で、現在は洋ラン経営を長男に譲渡し自身は産直用の果樹・野菜生産に励んでおられます。

昭和31年に就農され、昭和47年よりシンビジウム専作の経営を開始、全国屈指の洋ラン農家になるとともに、豊田市の洋ラン農家をまとめ、洋ラン産地の振興に尽力されました。

その間の研修生は、県立農業大学校や安城農林高等学校の学生を始め、専業農家の後継者、海外からの研修生を昭和47年から受け入れ、現在までに52名を数えています。受け入れにあたっては、事前に研修生宅に出向き、育った環境などを把握するなどして研修生の資質に合わせた対応に心がけ、国内では18名、海外では10名が就農しています。研修終了後も岡田氏は、就農者に対し栽培技術や経営に関するアドバイスを行っています。

洋ラン産地としての担い手の育成では、岡田さん自らが全国の先進地に出かけ技術を吸収し、その技術を積極的に農家に広めました。また、「豊田市洋らん研究会」を組織し、技術の向上と共有をすすめ、担い手の育成・産地の振興に尽力されました。

長男への洋ラン経営移譲後は、産直に向けた栽培技術、収穫調整技術、販売方法を工夫し、その成果を積極的に産直農家に伝授し、産直農家の育成に努め地域農業の活性化に大きな一翼を担っておられます。

産地の確立・発展のために、担い手を自らの手で育成していることを高く評価しました。

技術改善部門では個人1名が推薦されました。

岡田詔男さんは、愛知県農業総合試験場において41年8ヶ月の長きにわたり、現業職員とし

て試験研究の補助、果樹園芸技術の改善に携わってこられました。現在は、自らナシ園を経営されています。

岡田氏は試験場の研究員とともに品種開発に取り組み、ナシ栽培で培った篤農的な選抜眼を用いて、交配親の選定、実生育成、選抜を繰り返し、農家の要望に応えるナシの新品種「陽水」「歎月」の育成に多大な尽力をされました。

また、愛知県職員を退職後、豊田市でナシ園（35a）を経営する傍ら、JAあいち豊田梨部会員として、指導員の指導内容をよりわかりやすく説明したり、西尾の定年帰農者への講師としてナシ栽培のノウハウをわかりやすく伝授し、地域のナシ栽培の技術向上に貢献しておられます。

ナシ栽培では、新しい技術を積極的に導入され、栽培技術の改善に日々努力されておられます。

高い技術と献身的な人柄により、地域ブランドとなりうるナシの新品種を育成されたこと、そして地域農業の発展に貢献していることを高く評価しました。

農業・農村振興部門では、個人1名と団体1つが推薦されました。個人では、地域農業の中核として活動されている女性農業者であり、団体では山間部での地域営農を推進されている集団でした。いずれも知名度も高く審査に時間を要しましたが、協議の結果、宮路美千子さんを受賞者としました。

宮路美千子さんが経営に参画している「宮路園芸」は、豊橋市で代表的なオオバ専作経営を展開されています。また、女性の感性を生かした農業委員としての活動や次代を担う女性農業者の育成、住みよい農村づくりに精力的に取り組んでおられます。

農業経営では、先端技術の導入による栽培技術の改善、就業規則の設定などの雇用管理、家族の役割分担などの家族経営協定の締結を行い、自らも農地を保有して経営者としての地位を確立されました。

地域の資源である摘果メロン・冬瓜の利用による漬物の加工販売を行う女性起業「3H南部レディース」の立ち上げと運営、「豊橋女性農業団体連絡会」「豊橋市家族経営協定締結推進協議会」を立ち上げ、女性リーダーとして地域を統率しておられます。

宮路さんは、豊橋市の初めての女性農業委員として、「とよはし学校給食の日」の設定、花嫁花婿対策、遊休農地解消対策や景観形成作物の植栽による農地の利用増進などに尽力されました。

このように、男女とも働きやすい農業、暮らしやすい農村づくりに与えた氏の功績は大きく、今後の活躍も期待されます。

いずれにいたしましても、今回推薦のありました5名と1団体の方全員がそれぞれに素晴らしい活躍をなされていました。これからも多くの方々の推薦を期待いたしまして審査講評いたします。